

第23回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議

自由討論

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

それでは、自由討論時間に入りたいと思います。

本日発表されたテーマ発表の内容に関するものや、また今後の知事会議の発展のために良いご意見、8つの県市道の交流など、良いご意見がある場合は、ご自由にご発言いただきたいと思ます。発言したい方は挙手をお願いいたします。

○佐賀県知事（古川康）

ありがとうございます。韓国の知事さん、市長さん方にお尋ねしたいのですが、良い景観を作ろうとすると、如何しても個人の権利を制限しなければいけない事が出てきます。例えば、好きに看板を立てたり、好きなように建物を作ったりする事はできない事になるのだらうと思ます。美しい景観を作っていくために、そういう個人の権利を制限するという事について、取り組みをされているのか、その取り組みをすることについて苦勞があれば、その取り組みを教えてくださいと思ます。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

徐秉洙市長にお願いできますでしょうか。

○釜山広域市長（徐秉洙）

佐賀県知事より、非常に重要なイシューのお話がありました。實際都市を管理すること自体が、片方では経済的観点から、産業化ですとか、発展させるために、また企業を誘致するために、この規制を緩和するのが望ましいという側面があります。その一方で、規制そのものが共同の生活を享受するためには、規制が必ず必要だというご意見もあるかと思ます。そういう点について、個人の権利をより重視すべきなのか、あるいは共同の秩序の維持のために必要な規制であるならば、もちろん共同体の住民がどの程度コンセンサスを形成することができるかによりますけれども、いつもやはり困難な状況にぶつかります。私たちが都市を管理することにおいて必要なものであれば、個人の権利、自由があまりにも放置してはいけないというふうに私は考えています。たとえば、韓国社会で、道端で無秩序に屋台を出したり、また交通渋滞の原因になっている事例もあります。また都市の景観を損ねたり、周りにある登録された商店街に被害を与えたり、そういう営業活動を妨げたりする側面があります。それにもかかわらず、社会的に雰囲気、屋台を出す人も食べていくためにそうしているのに、そこまで規制するのは望ましくないのではないかという意見、感情というのもあるわけです。そういうことは、あまりにも急激に進めるのではなくて、都市と調和をなして生活していくためには、こういうものが必要である、社会に十分に認識を植え付ける、そういう時間が必要になると思ます。十分に説明をしまして、説得をしまして、それをするのが共同の社会を作り上げていくのに欠かせないものであると思ます。そういう認識を啓発させるのが、まず重要です。また、個々人の生活がどのようになっているのかも重要であると思ます。彼らの生活の具合ですとか、生活水準、経済力、そういうものも考慮しまして、ほかの商売の形に変えまして、生活できる支援を行ったり、そういう部分までも私たちが考慮して、対策を講じていかなければいけないと思ます。それにもかかわらず、社会的なコンセンサスが形成されないのであれば、これまでの推進経過を十分説明しまして、コンセンサスを形成するために努力をすることで、ある程度法律に従いまして、時には物理的な規制というののもやはり行使せざるを得なくなるのではないのでしょうか。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

はい、その他おありでしょうか？はい、福岡県の小川知事をお願いします。

○福岡県知事（小川洋）

はい、ありがとうございます。今の関連ですけれども、環境を守る、或いは景観を守るというためには、人々の意識が大事だと思います。できるだけ小さい頃から、そういう意識を植え付けさせるべきではないかと私自身は思っておりますけれども、韓国において何か、小さいお子さんにそういった意識を持たせる啓発のところで、取り組んでおられます取組みがございましたら、ご説明をお願いしたいと思います。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

元喜龍知事、お願いいたします。

○済州特別自治道知事（元喜龍）

はい、我が済州島でございますけれども、他の市道と共通した部分もございますが、特区なので特異点もあります。ユネスコから世界自然遺産、そして生物の多様性に関する保全地区、世界ジオパークといったこの三つの国際機関による環境保全の地区として選定されています。ですから、国際協約に加入している状況であります。これに伴うブランド力ができまして、観光産業ですとか、これと関わります例えば地域経済の発展というものがあるなされているので、他の地区に比べれば、地域住民の皆さんや育てていく子供たちも、環境保全の問題や気候変動の問題について、他の地域に比べて意識が高い地区でございます。

済州島は2030年まですべての化石燃料をなくす「カーボンフリーアイランド2030」を今進めているということで、風力発電、電気自動車、エネルギー貯蔵システムなどを今開発して、大変意欲的に進めながら、こういう環境問題に対する学生の教育にも、これを多く反映しております。もちろんこういうこともあるのですが、さきほど佐賀県の知事もおっしゃってくださったんですが、実際一番難しいと思う点は、たとえば私たちは世界の中で済州島だけ持っている、たとえば火山石からなるこの石垣が世界農業気候FAから昨年世界農業遺産として指定されてですね、こちらについてもやむを得ず保存義務を得ることになってしまいました。国際機関からこのようなタイトルを得るということは名誉あることなのですが、それを維持してくということは農業が出来ない、道路もこれ以上作れないという問題があるんです。

ですからこうした場合に、開発からくる開発利益と保全からくるその効果とか、その両方を、たとえば全体でみると意識には繋がっているんですが、たとえば他人の権利、他の人の財産については守れとは言っています。ですが、自分の財産については開発しようとする、そういう欲求がありますよね。ですから、そういう部分については、相当部分については教育とそういう意識によって皆さんが受け入れるべき義務に対する好感、もちろんコンセンサスを形成する必要もあるんですが、個人的な犠牲、損害を得るということ、景観直接支払い制ですとか、いわゆる社会的な補助金、また社会的にそういう保全義務を担うということについて、インセンティブがあるんだという、そういう合理的な理解システムといたしまししょうか、コミュニケーションシステムというものをどういう風に信頼を基に皆さんに説得していただけるのか、これは社会的資本の向上にも繋がる部分でもあると思います。

ですから、信頼を基に、社会全体のコミュニティのために犠牲を払ったときには、その分のインセンティブが返ってきて、ということでみんなが自分の利益を守るための闘争ではなく、社会全体の譲歩とそれに関する保証があるということ、より発展した社会システムをどういう風につくっていくのか、正にここが私達済州の問題を解いていく上においても一番ホットな 이슈と

なっています。

また、今育っていく次世代の子ども達は、我々な世代よりはより賢明で良いシステムを作り上げてくれることを願いながら今教育しています。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

徐秉洙市長。

○釜山広域市長(徐秉洙)

福岡県の知事から発表がありました。自然保護に関する意識、こどもの頃から我々が教育というものを、意識、生活の中で、自然保護が重要だという認識を深めていけるようにするのが重要だと思います。韓国の場合は、やはりまだ経済開発の観点、今は自然の重要性について徐々に認識を高めているところではあります。そんな自然保護に対する認識が拡大してはいないと思います。

森の幼稚園とか、学校の生涯学習を通じまして、引き続き地域の共同体を教育の現場として取り入れて、私たちが守るべき価値があれば、それについて幼い頃から、幼稚園の時からカリキュラムに取り入れて教育していくことが、釜山もそうですし、韓国で活発に行われるのではないかと思います。

今回私の方から質問をさせていただきます。福岡県の知事、シーサイド百道地区、ソフトバンクのヤフードームがあるという写真を見せていただきました。地方自治体がドームを所有しているのか、そして球団がドームを所有しているのか、ホテルや商店街ですとか、周りに先程の写真を見ますと、複合施設として整備されていたんですが、たとえばホテルの場合でしたら、球場に夜10時過ぎまで野球の試合をする場合がありますよね。11時半までしたり、そうするとやはりホテルに泊まる方々の睡眠の邪魔になったり、そういう問題はないのか。そして近くにある住宅、周りに住宅街が整備されていないのかお聞きします。

長崎県の副知事にも一つ質問させていただきます。女神大橋、説明があったのですが、クルーズ船、長崎港にはクルーズ船が入ってきているということで、今はクルーズ船というと大型のものが入ってきますよね。そういった場合には、そういった高さ、マストの高さと比べた時に、きちんと通過できないような事例も出てきていると思うのですが、そういう高さの問題をどういうふうに克服されていますか？そういう事例について、長崎県からお答えいただきたいと思います。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

ええ、非常に具体的で実用的な会話が行われていると思います。それでは、福岡県の知事よりお答えを頂戴したいと思います。

○福岡県知事(小川洋)

それでは、まず私の方からシーサイドももち地区の件を説明しますと、この地域にあります色々な施設はそれぞれ施設ごと所有者が異なっております。球場は球団が持っております。ホテルは、今、ヒルトンホテルのチェーンになっております。色々なショッピングモールとかありますけれども、それぞれ主体が違っております。幾つか施設を共通で持っている所もありますけれども、基本的に施設ごと所有者が違っていると、一つの所有者がいて全体をゾーニングして管理している訳ではないという事がございます。それから、この界限には住宅はあまりありません。少し離れた所にマンション、戸建て住宅が、ハビタットゾーンというのがございます。ですから、球場がドーム球場になっておりますので、密閉されておりますので、中で大騒ぎしようが、トランペットをガンガンやっても、外には聞こえません。問題はお客さんが出入りをする、それから交通が渋滞するという問題は発生しております。ただ、それによって、街の賑わいが盛んになります

から、プラス効果もありますから、地域の方達から問題視することはなくて、寧ろ施設を管理している側が、交通渋滞がおこらないようにするとか、お客さんの移動を速やかにしていただくための努力をしておられます。私の耳に届くようなクレームとかは出てきていません。これで答えてますかね、今ので。

○長崎県副知事（里見晋）

それでは長崎県から答えさせていただきます。

この女神大橋の高さは、海面から65メートルございまして、クイーンエリザベス2が一番高いと思うんですけども、そこを意識して作っておりますので、実は日本の横浜にありますベイブリッジというものが、これが62メートルという微妙なんですけれども。私どもは今の客船等は全て通れるようになっております。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

私も日本側の知事・副知事4人の方に質問したいと思います。

その前に、小川知事の方から大変幼い子ども達に、例えば環境教育をする部分についての質問を頂戴しましたが、まず、韓国の小学校では、環境にやさしい給食を数年前からしています。農産物でもって、環境にやさしいものを子供たちに昼食として提供しているんですが、それとともに日本の食育基本法がございましてね。そのようなもので、食品教育法というものがございまして、食生活の重要性、地元の農産物の重要性について教育しています。

また、ソウルの場合は、小学校の学生の間でアトピー、皮膚病などが深刻な問題になっています。都市にいてということに起きているのですが、アトピー治療のために山中の学校に転校するような事例も出ています。ですから、父兄の皆さん、子どもが環境の重要性を身近なものとして、今接している状況です。

4人の知事に質問いたします。

まず佐賀県の古川康知事に質問します。この有田焼について発表して下さいました。全羅南道にも陶磁器産業があります。日本では大変歴史が長いということなんですけど、韓国でも、たとえば直に外部の人を招待するという例が減って、外食産業ですよね、外で人に会ってお終いという文化が広まっています。陶磁器の売り上げがそういうことによって減ってしまう、本当に器を使う食事文化自体がなくなっている、陶磁器産業が委縮しているということに繋がっているんですね。日本もおそらく、そういう家庭にお客様を呼ぶという文化が無くなっている気がしますが、このような状況で、佐賀県のこの有田焼を含めた陶磁器産業がこれからも発展していけるような方策とはどういうものがあるのかお答えいただきたいと思います。

そして二番目に、山口県への質問です。村岡知事をお願いしたいのですが、角島大橋が1.7キロメートルくらいのお話でしたが、これだけの長さ、素晴らしい橋をつくるのにお金がかかると思うのですが、財源はどう調達されましたか。山口県の財政がそれくらいあるということでしょうか。それとも国の事業として進めたということですか。韓国では、地方自治体がそれくらいの大橋を作るというのは夢でも見られないような事業なのですが、びっくりしたのでお聞きします。

三番目に、福岡県の小川知事に申し上げます。私は羨ましいと思って見たのですが、地方の人口が増えたというのは、想像に絶する部分です。人口が増えといった場合には、お昼の時間に小川知事のお話にもありましたけれども、魅力あふれる雇用があってこそ、地方の人口というのは増えるものです。福岡県の場合はどういう雇用があって、地方であるにもかかわらず人口が増えたとか、成功事例がおありでしたら教えていただきたいと思います。

最後に長崎の里見副知事に質問します。私にとって長崎県は本当に身近な県として思っているのですが、というのは「長崎は今日も雨だった」という歌が私いつも耳に回って50年ということですが、以降にそういう長崎ならではのセリフの入った、そういう歌を作る計画はないのですか。

また、山口や佐賀県はそういう歌がありません。ですから、たとえば福岡ですとか佐賀、山口もそういう広報を兼ねた、ターゲットとした歌を歌ったりする計画をございませんか。参考までに、韓国の4つの市道では、釜山は有名な歌があります。「釜山港へ帰れ」ありますよね。ご存じだと思うんですが、済州もありますよ。ヘウニという歌手が歌っています。慶尚南道と全羅南道は本当に曖昧です。そういう事例があれば教えていただきたいと思います。

○佐賀県知事（古川康）

それでは、まず有田焼について、お答えを申し上げます。有田焼の主な使い道は、日本旅館でした。伝統的な日本旅館では、朝ご飯は沢山の、まるで韓定食の様な沢山のおかずがいっぱい出てきます。そして、それが一つ一つの皿に載っています。皆様方がお泊りになる様な高級旅館の場合には、大体、有田焼が使われる事が多かったです。ところが、最近、公務員の出張も厳しくなって高級旅館に泊まる事はなくなりました。私達が今、泊まる様な、例えばビジネスホテルなどは、朝ご飯はビュッフェです。お皿幾つ使いますか。殆どの人達が朝ご飯に沢山の有田焼を使うという事がなくなっているんですね。それは自分達ですら感じています。それと、さっき全羅南道の知事さんがおっしゃった様に外から買ってきて物を食べる習慣が日本でも増えてきています。少しお年を召した方なら買って来たパックそのままテーブルに出す事を嫌がって、自分の家にある食器に移してから出すという事をされたりもしますが、そういう事に抵抗のない若い世代も増えていきます。そうすると、自分の家にももう良い皿は要らないという事になってしまうんです。そこで、私達は新しいマーケットを作り出すほかに考えて、ヨーロッパをターゲットにして、今の現代のヨーロッパの人達の生活の中で使ってもらえる様な、新しい器を考えようという事で、取組みをスタートさせています。それが先程、ご紹介した幾つかのプロジェクトで、特徴は全ての事について、デザインはヨーロッパで、そして、作るのは有田の技術で、という整理をしていることです。実は、一番最初にオランダのデザイナーから話があった時、彼は自分の作りたい陶磁器をまずベトナムに発注したんです。だけど、技術が難しくて出来ないと言われ、次に中国に発注しようとしたところ、中国から出来上がってきたものは注文通りの物ではなかったそうです。そこで困って、人から有田焼を紹介され、値段は高いけれども、きちっとした技術があるよという事を言われて、注文したところ、きちんと納期に間に合う、非常に技術の高い物が出来上がってきたから、関係が生まれてきています。私も全羅南道に陶磁器の産地がある事は知っていて、そこに前々回の全羅南道訪問の時には行って、そこで絵付けまでいたしました。こうした伝統技術を大切にしている所が持っているもの、伝統技術はやはり財産なんだろうと思います。それを使って、これまでお客さんじゃなかった所に物を売っていく事をしていかなければ、生き残ることはできないのではないかと考えているところです。

○山口県知事（村岡嗣政）

はい、角島大橋についてお尋ねがありましたので、お答えします。

この角島では、そこに人が住んでいますけれども、そこに渡れる橋をつくるというのが、長年の懸案でした。非常に長いということでありましたけれども、確かに、無料で渡れる一般道路としては日本で二番目の長さということになっています。一位は沖縄県にあるのですけれども、二番目に長いのが、この角島大橋です。

費用は150億円かかっているのですが、ここは非常に過疎の所でありまして、国からの補助が半分ぐらいあります。残りを自治体の方で負担していますが、10年間かけてやっておりますので、毎年毎年の負担はなんとかできる程度ということだと思います。

それで先ほど説明しましたが、エメラルドグリーンの素晴らしい海が見えるということで、これができたことで観光客が非常に増えています。それまではこの地域は20万人程度だったのが、今年間60万人になっておりまして、40万人程度増えていますし、そしてまた、都会からもこの橋を

見て、この地域に移り住みたいということで、引っ越して来る方もいらっしゃいます。ちょうど今、角島の話が出てきたので、この機会をお借りして少しお話させていただきたいのですが、日韓でこの会議でやっているごみの一斉清掃は大変素晴らしい取組だと思っています。私も知事になって2ヶ月してこの一斉清掃のイベントに参加をさせていただきました。地域の住民の方々、皆さんが一緒になって海岸のごみを拾うということで、この角島の海岸も対象の地域になっています。

先ほど言いましたように、このように引っ越して来るという例もありましたが、特に、東日本大震災以降、都会の暮らしではなく田舎で暮らしたいという人たちが増えています。そういう中で地域の景観というのが非常に都会の方にとって魅力的でありますし、その素晴らしい景観を保っていくということが山口に移り住んで来る人たちにとって、非常に強いインセンティブになるわけでありまして、そういう意味では、日韓の海峡沿岸でやっているこの清掃活動は、非常に有意義なものだと思っています。県の方でも条例をつくって、景観をしっかり守っていこう、海の景観を守っていこうということで取り組んでいますし、県内の市や町も同じような条例をつくって取り組んでいます。ぜひこの取組をさらに強化をしていただきたいなというふうに思っています。日韓の海峡沿岸が非常にきれいだということになってきますと、それぞれの地域で観光客が増えたりとか、地域の活性化とかに繋がっていく、共通の利益に繋がっていくと思っておりますので、ごみの清掃もそうですけれども、ごみを出さないとか、捨てないということも含めて、しっかりとそれぞれの地域が取り組むということが、この地域の景観の素晴らしさということを、国内、海外にもアピールする非常に大きな力になると思っておりますので、引き続きこの取組を続けていきたいというふうに思っています。以上です。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

ちょっとお待ちください。150億円ですよ。

○山口県知事(村岡嗣政)

1500億ウォンです。円では150億円です。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

そして、ごみの掃除のお話も本当にありがとうございました。ごみは一方方向に進みますよね。ですから双方向でやるのは難しいんですが、ありがとうございます。それでは、小川知事のコメントをいただきます。

○福岡県知事(小川洋)

福岡県の人口が増えている件ですが、人口が増えると、増えた人に見合いの生活サービスを提供するものが、また増えなきゃいけない。それから、企業の事業所が増えれば、また企業向けのサービスも増えると、そういう事で好循環が生まれれば、人が集まるようになる、これは社会増減。自然増減、人が増えますと、若い人が増えますと、お子さんが生まれるから、自然増も増えるかも知れない。そういった好循環を地域でどうやって作るかという事がポイントだと思いますが、それに関連して、幾つかポイントを申しますと、福岡市地区を中心に所謂、支店経済、大企業の支店が沢山あります。それから、行政機関が多い。それにまつわるサービス産業が沢山立地しております。それから、先程、申しました様に、交通が非常に便利だとか、自然が豊かで、都市機能が整っているという事がありまして、利便性とか、そういう都市機能に着目して、人が集まっているという感じがしています。北九州、その他の地区は、製造業、自動車、ロボット、半導体、そういったところが非常に盛んでございます。また、それに関連する企業誘致、我々、一所懸命やっていて、そこで進出して来る企業が人を雇う、乃至、他の所から移ってくる。農業も、

最近の特色をみますと、一所懸命、農業を振興しています。農家の子弟が、大学とか、福岡県外で勉強した、学校を出た人が戻ってきて、親の後を継ぐ人がかなり出て来ています。それを一所懸命、我々増やしたいと思っております。それから、観光も、色々な観光資源を磨く事によって、それをまた繋ぐ事によって、多くの人々が来だすと、それに従事する人も増えていく。やはり、地域の特色、強みを最大限発揮して、職場を作っていくという事を地域と一緒にやっていく。もう一つ大事なものは教育機関の存在です。福岡県には大学が沢山ありまして、理工系の大学生の卒業生の数は、多分、東京とかに次いで、二番目か三番目かだと思います。そういった人材が地域に残って働けば、それだけ人口が増える。18歳の頃ぐらいに学びに福岡にやってきて、卒業の時に出て行かないで残る、また、就職の時に入って来る人もいます。因みに福岡の場合、男性が20代で県外に就職に行きます。女性は大学卒業しても県内に残る。また、よそから新しく就職でやってくる。そういう事が重なって、人口が幸いにも増えています。ただ、数年経つと落ちていく事が予想されています。

○長崎県副知事（里見晋）

それでは、他の知事さんとは違う分野の質問で、私はあまり歌が得意じゃないので、大変難しい質問ですけれども。

前川清さんの歌ですね。有名すぎてですね、その後が難しいんですけれども。長崎県出身の歌手で有名な人が二人ほどいます。さだまさしさんともう少し下の世代ですと、福山雅治さんという方がいます。

長崎の名前を付けた曲ですが、さだまさしさんは、いろいろ長崎とか、あとご自分が学生時代、東京の歌とか歌っていらっしゃるんですけども。「長崎シティーセレナーデ」という曲をさだまさしさんが出してあります。じゃあ前川清さんのあれほど有名かと言われると、たぶんそこまで有名ではないと思いますけれども。

福山雅治さんは、比較的若い世代に大変人気がありますけれども、「マイホームタウン」という歌を歌っておられまして、そういう意味では、それに続く、どこまで世代を超えて歌い継がれるか分かりませんが、ありますし。

あとは、毛色が変わったところでは、何年ぐらい前ですかね。5、6年ぐらい前ですかね。子ども番組があるんです。日本では昔からNHKというところで子ども番組をやっておりますけれども、そこで長崎の地元の「わらべ歌」というか子どもの歌で「でんでらりゅうば」というものがございまして、これが少しポップな感じになって、それが割に子ども達の間では有名です。私の子どもの世代は、「でんでらりゅうば」で、結構育ったんですね。割に通な人がいますので、いろいろご存じなければ、私は歌えませんが、ご紹介させていただきたいと思います。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

今日の夜、里見副知事の歌をぜひご期待しながら、お答え頂戴いたしました。

○佐賀県知事（古川康）

すみません。補足をします。私は長崎県に4年間住んでいたのですが、少しお答えすることができます。まず、「長崎は今日も雨だった」で、誤解されているのですが、長崎県の平均降水量は、全国47都道府県の中で、確か42位ぐらいなんです。あまり雨が降らない所なんです。それと、あの歌がヒットした頃は、実は長崎は、水不足で困ってたんです。ですから長崎が雨が深いというのは、完全に誤解でございますので、皆さん、安心して来ていただければというところでございます。おそらく、雨が降ってほしいという気持ちで歌ったのではないかなと思います。以上です。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

はい、また他ございますでしょうか。大変誠実なお答え、ありがとうございます。音楽勉強を私はいつもしているのですけれども、長崎県副知事より歌についてお答えいただきました。

○釜山広域市長（徐秉洙）

水の劇場というのがありました。さきほどの資料の中でですね。小さな川に石橋を置いて、その周辺にいろいろな自然環境をうまく整備されていたんですけれども、この水の劇場というのはどういう意味なのでしょう。実際にそこで劇場や映画を上映する施設があるのでしょうか。それとも自然景観そのものを劇場と呼んでいるのでしょうか。その水の劇場について、質問をしたいと思います。あまりにも実務的な質問かもしれませんが、お答えいただきたく思います。

また、どの知事からお答えいただいても構いませんが、韓国では白い砂浜が今徐々に面積自体が減ってきている状況でございます。ですから原因を独自で研究はしているところですが、やはり白い砂浜を保全するために様々な方法について考えているところですが、日本もそういう事例がありましたらどういう風に対応されているのか教えていただければと思います。良い方法などございますでしょうか。

○長崎県副知事（里見晋）

簡単なほうから申し上げます。水の劇場というのは、後者のほうでして、イメージでこういう劇場という言葉を使っています。ただお聞きしながら、ここで劇場とかをしたら面白いかなというふうに触発された部分はありますけれども、現在はそういう使われ方はしておりません。

○佐賀県知事（古川康）

砂の問題ですが、私達も同じ様に困っています。特に、韓国側に面している佐賀県の唐津の北側、玄界灘に面している所では、以前と砂の分布が全然違ってきていて、ある所の白い砂が削られて、それが数キロ離れた所にももの凄く堆積しているという事が起きていて、明らかに変化が起きているという事が確認されています。残念ながら、それをこうしたら上手くいきましたとお答えできないのが残念なんです。今、減った所と増えた所を、原因が何故なのかという事について、検討委員会を立ち上げて調査をしているところです。難しいのは、実は、その僅か数キロの海岸でありながら、その海岸を管理している部署が、この佐賀県の事例の場合、違ったんです。まず、東の方は県庁の河川だったと思います。そして、それからちょっと行った所は農業関係のセクションが所管をしていました。そして、もう少し行った所は佐賀県ではなく唐津市が管理をしていました。で、もう少し行くと、今度は全くの海岸で、これは一般的には国が管理という事になります。この様に、役所の中で、全てを一人の目で見ることができなかったのが、この問題が大きくなるまでほっておかれた原因だったと思います。かつて、同じ様な問題が起きた時には、ある一つの対策を講じました。それは劇的に効果を表しています。どうしたかと言うと、減りそうな海岸の前に、防潮堤という潮を防ぐ堤を作りました。そうした結果、それは私が生まれた家の直ぐ前の海岸だったんですが、砂が持って行かれることはなくなりました。その代り、今、我々が議論している様に、景観が悪くなっちゃったんです。今まで大変素敵な海だったのに、そこに防潮堤が目に見える形で、今あります。私は、それを何とか目に見えない位に海に入った様な状態に出来ないかという事を聞いてみましたが、それはできるけれども、防潮堤の効果があまり無くなるよという事を言われております。だから、砂を守りながら、かつ、美しい景観を守るという事を我々は実現しなくては行けないという事で、今、検討委員会を作っているところです。

○福岡県知事（小川洋）

福岡県も全く同じ悩みを抱えています。「白砂青松」って、白い砂と後背地に広がる松林があるのですが、松林は最近、松枯病、松食虫に相当やられています。これが、民有林と国有林と、

色々な主体が違うので、一所懸命、防除しても、隣の人がやらなければ、駆除しなければ、また広がってしまうとか言って、一緒になってやっていこうという事で、松は守る。それから、その後、先の砂浜も海流が色々な理由で変わってきて、先程、佐賀県知事が仰いましたけれども、うちも綺麗な砂浜が抉られちゃって、港の方に流れ込んで、港が使えなくなるとかですね、そういう状態になっていまして、原因がまだはっきりしませんので、福岡県も専門家に集まってもらって、今、原因究明をしているところです。原因究明の後、どういう対策があって、関係者の役割を決めて対応していきたいと思います。そういう意味では、陸側と海側とで、海岸を守ろうとしています。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

機会があれば、白い砂浜に関する経験も次回の会議などで、意見交換するチャンスがあればと思います。他に何かご質問等おありでしょうか？無ければ、若干時間がありますので、山口県に質問させていただきます。この下関、下関ですよ、フグの解禁がなされたということで、日本でフグ料理が認められた第一号の店が下関にあるということですが、また歴史を保護するというのも大変印象深かったです。また特にこの下関では、釜山と青少年交流が活発になされているというお話をお聞きしました。また、釜山の女子大生が、留学にも行ったり、語学研修に行ったり、活発にしているということですが、現況について何か教えていただけることがありましたら、お願いしたいと思います。

○山口県知事(村岡嗣政)

はい、ありがとうございます。

下関はアジアに開かれた港でありまして、山口県が発展するのにも非常に大きな力となっておりますが、そしてまたお話にあったように、フグ、非常に美味しい魚が日本で一番水揚げをされている所でありまして、またぜひ皆様方にも下関にもお越しいただきたいというふうに思っています。

下関は釜山とフェリーで繋がっているということもありまして、長い間、交流をしてきました。そして、釜山との関係もあるので、山口県も慶尚南道と交流を結んでいまして、3年後は30周年という節目の年を迎えることになっておりまして、さらに交流を深めていこうということにしているわけでありまして。海で非常に近く繋がっておりますので、人的な交流、特に子どもたちの交流事業も盛んに行ってきましたし、そしてまた、文化の面でもいろいろ、美術館の展示をお互いに交換し合ったりしてまいりました。もちろん経済的な取引もやっています。

私は昨日、釜山に行ってきたのですが、釜山にある日本の唯一の銀行が山口銀行ということでありまして、山口銀行だけが日本で唯一釜山にある銀行ということでありまして、釜山において様々な日本と韓国との懸け橋になっているということでもありますので、そういった繋がりもあるわけでございます。

本当に、これからもいろいろな節目の年を迎えていきますけれども、経済の面、そして、文化芸術、スポーツも含めて交流を続けて行こうとしています。これからもどうぞよろしく申し上げます。ありがとうございます。

○司会者(全羅南道知事・李洛淵)

はい。

○福岡県知事(小川洋)

フグの話があったので、ちょっと宣伝させてください。福岡県もフグの有数の産地として、天然トラフグの水揚げが日本一の港があります。鐘崎という町なんです、そこは日本の海女です

ね、海に潜って貝とか海藻とかを採る、その海女さんの発祥地、その港が天然トラフグの水揚げ日本一でございまして、下関に持ってっておりますので、福岡のフグもお忘れなく、よろしくお願ひします。

○長崎県副知事（里見晋）

養殖物のトラフグは実は長崎が一番でございまして、あわせてご賞味いただければと思います。

○佐賀県知事（古川康）

フグは、実は養殖物のフグというのは肝に毒がないと一般的に言われているんですね。ところが、日本では肝を食べる事を禁止されているんです。私達、佐賀県は、養殖されたフグには毒がない事を科学的に立証して、だから食べさせろという運動をやっています。で、それが、政権交代とか色々で、中々、思った様に進まなくて、何で政権が代わったらフグの肝が食べられなくなるのかよく分からないんですけども、いつの日か、堂々と日本でフグの肝が食べられる時には佐賀県にお越いただければと思います。

○釜山広域市長（徐秉洙）

では、私も一言。このフグなんですが、私が国会議員の時、選挙区が海雲台です。そちらもフグ料理が有名で、本当に多くの店があるところなのですが、私が聞いた、確認まではしていませんが、お聞きしたら、養殖は毒がない。実際そうですか？じゃあ、フグは毒があるから食べる、毒がないフグはフグじゃない。ですから一番高いフグ料理は、その料理士が料理をする時にその毒を若干ですね、微妙ですけども、さしみを取るように、どれだけ微妙に塗るのかによって、全然味が異なってくる。それが料理士の腕前なんだと、そういう話をお聞きしたんですが、皆さん同意されますか。

○山口県知事（村岡嗣政）

フグについては長らく毒があるからということで日本でも禁止されていたのが、山口県で初めて解禁して食べ始めたもので、今はきちんと毒の関係は処理をしています。身欠きという形にして、処理をして毒が無いようにして食べています。

私が子供の頃は結構、食べるとピリッとしたこともあったのですけれども、今は、非常にその辺の関係は、規制の関係もありますけれども、きちんとしています。

そしてまた、特に、調理師の方が非常にきれいに切りますので、これをお皿に薄く盛って、芸術性も高いということでもありますので、見た目の美しさも含めて、もちろん美味しさもそうですけれども、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。

○釜山広域市長（徐秉洙）

私の趣旨は、毒のないフグはフグじゃない。だから、フグとして扱わない。食べないということですが、毒をどれだけ微妙に塗るのかということです。

○佐賀県知事（古川 康）

毒は塗らないと思います。あれ、神経毒ですから、食べた瞬間に痺れがきたり、死んだりするという位のものです、それを態々塗るといのは面白い話として言われている事だろうと思います。で、ピリッとくるというのは、それはどういう事なのか、大体、立証ができていて、勘違いだそうですね。ピリッとくるくらいのものおいしいと思って食べると、時々ピリッときたように思うそうですね。それともう一つ、養殖のフグには毒がないということは、フグの世界にいる人達は常識として知っています。ところが、フグの毒というのは、元々、天然にいるフグが色々な餌を食

べます。そこに、色々な餌に含まれているテドロトキシシンという成分から肝臓に蓄積して、一定以上蓄積すると、人間に対しても毒になっていくという事なんです。養殖のフグは、そういう危ないものを食べさせないので、つまり食べたものが明確なので、肝に毒が溜まる様な餌を与えていないから大丈夫なんですね。ところが、この事が科学的に実証されていない訳です。私達は委員会に対して、5千匹、こういう餌を食べさせたら大丈夫だという数字を出しました。ところが、5千匹では足りないと言われた訳です。さらに、何千匹もやっています。だけど、5千匹も、1万匹も、そうかも知れないけれども、次の奴が無毒だという証明がないじゃないかと言われていました。それで、じゃ1匹のフグを取って、フグの肝臓の一部を削って、それが無毒であるという事が分かったら、その肝臓の残りの部分は食べても良いのかって話をすると、今度はフグの毒が肝臓に均一に分布しているという証明を出せと言われていたんです。そういった事もやっているんです。で、いつの間にか、私はフグに詳しくなっていました。

○釜山広域市長（徐秉洙）

私は毒のないフグは売れないという考えは変えないということで、はい、まとめたいと思います。私が申し上げたいのは、20年くらい前から、ロータリークラブ、皆さん、ロータリークラブを御存じですよ。ロータリークラブの会員といたしまして、日本の本当に小さな町でした。福岡から西側、一番韓国と近い方向に行った、豊後高田だったと思うんですけども、本当に小さな町があって、あってますでしょうか。小さな村、町だったと思いますが、豊後高田、そういう発音だったと思うのですが、とにかくその町と当時協議をしまして、姉妹提携を結びました。ロータリークラブの会員の中でも、子どもたちに毎年1回韓国に来ていただいて、その次の年は韓国の子どもたちが日本に行ってホームステイをしたり、互いの交流を深めたり、互いにこう、友達としての関係を生むということをやっているんですけども、協議会のレベルでもそういうことが必要ではないかと。1つの事業としてですね、発展させていくのはどうかとご提案をさせていただきたいと思うのですが、皆さん、どういうお考えでしょうか。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

はい、素晴らしいご提案でした。

○福岡県知事（小川洋）

ご提案ありがとうございます。2年程前ですが、この会議で子供達の交流をやりましょうという事でスタートして、さっきのビデオにありましたけれども、中学生の交流が4県、4県で始まっております。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

最後にはっきり、政権交代とフグとどういう関係性があるのか、最後に一言だけ佐賀県からはっきりとお答えいただきたいと思います。

○佐賀県知事（古川康）

民主党政権の時には、食べられるかどうか、県で判断してくれと言われたんです。で、今度、自民政権の時になったら、それは国が判断するので、あなたたちがいくらやってもダメだと言われていました。ということです。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

どちらを支持されますか？国ですか、県ですか？どちらに任せるのが正しいと思いますか？

○佐賀県知事（古川 康）

微妙です。後程ゆっくりお答え申し上げます。

○司会者（全羅南道知事・李洛淵）

はい、それでは時間となりました。美しい景観づくりから始まって、皆さん、フグの毒が必要なのか、必要でないのかまで、本当にごつくばらんな熱意をおびた討論となりました。本当に実務者の皆さんがまた共同声明をまとめる時間も必要なので、以上で討論を終えたいと思います。議題にとらわれない活発な討論は晚餐会に託して、以上で終わらせていただきます。それでは皆様記念撮影のご協力お願い申し上げます。

おつかれ様でした。本日この会議が円滑に進行できますようにご協力いただきました、県市道知事の皆様に感謝申し上げます。以上をもちまして第23回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議をすべて終了させていただきます。ありがとうございました。